

東京 IPO 特別コラム

2019年9月19日 Vol.153

始まった令和元年秋のIPO相場

大型台風一過の後の爪痕は千葉県での大規模停電につながり、社会システムの混乱が見られる。被害に遭われた皆様へお見舞い申し上げたい。そうした中で調整相場が続いた株式相場は米中貿易交渉の進展期待、為替の円安などから予想外に堅調な推移が見られる。日経平均は8月に2万円割れ寸前の水準まであったが、9月に入ると10日連騰を見せるなどじり高歩調を辿り、2万2000円を超えて4月の年初来高値に迫る勢いだ。投資家の関心はどちらかと言うと日経平均指数に連動した主力銘柄や好業績材料銘柄、SBIホールディングスの第2地銀への資本提携発表による一連の銀行株、自己株買い発表銘柄などに偏りが見られ、個別銘柄には全体指数の堅調さに比べるとまだ出遅れ感の強い銘柄が多いようにも感じられる。

そうした中で令和元年秋のIPO銘柄の取引が12日のピー・ビーシステムズ(4447・Qボード)から始まった。同社は福岡に本社を置き企業の基幹システムのクラウド化を推進するセキュアクラウドシステム事業をコアにしており、公開価格1380円に対して41%上昇の1950円で初値をつけたが、その後の株価は早くも弱含んでいる。Qボードだから不人気だと言われそうだが、Qボード上場企業は先般Qボードからマザーズに上場を果たしたLibWork(1431)のように上場時は不人気でも業績を伸ばすことで一気に評価を高めていく可能性がある。Qボードはマザーズや東証2部、1部への登竜門でもあり、投資家にとっては時価総額が小さい段階での投資チャンスがある訳で関心を持って頂くと良いだろう。

これに続いて本日19日はライフスタイル雑貨販売のアミファ(7800・公開価格660円)がJASDAQに上場。全体相場堅調の中で初値は910円で公開価格を38%上回り高値は944円まであったが、これもまたその後は大きく調整の動き。同日にマザーズに上場したインフルエンサーマーケティング事業を展開するサイバー・バス(7069・同2300円)も初値は4000円で公開価格を74%上回り高値は4490円まであったが、これもまたその後はやや調整の動き。また、20日にはeギフトサービスの企画・開発・運営を行うギフトィ(4449・M・同1500円)、24日にはビジネスチャットツールchatworkを開発提供するchatwork(4448・M・同1600円)の上場が予定されている。更に26日のHPCシステムズ(6597・M)、10月1日のパワーソリューションズ(4450・M)、2日のレオクラン(7681・T2)などそれぞれにユニークな事業内容を備えた令和元年秋のIPO銘柄が続々と登場することになる。

いずれも公開されたデータや事業内容を吟味する限り公開価格に対してかなり人気化する要素を秘めているが、これまでのIPO銘柄の値動きを見る限りでは波乱とチャンスが入り混じっていることだけは確かなようだ。

(東京IPOコラムニスト 松尾範久)